

New Horizon 第21回 Lessons

Lesson 21-1 : 過去進行形 肯定文

過去進行形とは「勉強していた」「食べていた」といった、

現在進行形を過去形にしたもの

です。これは現在進行形の形が理解できていれば非常に簡単。なぜなら、基本的に現在進行形の be 動詞の部分の過去形にすれば完成してしまうからです。例えば、ここで学ぶ肯定文は、まず現在進行形の形を作り、be 動詞を過去形にすれば完成となります。

【過去進行形の肯定文：基本の形】

主語 + **was** + 一般動詞の原形 **ing** + ．
were

(「主語」は「一般動詞」していました)

- <例> I was studying English. (私は英語を勉強していました)
He was playing basketball. (彼はバスケをしていました)
We were eating breakfast. (私たちは朝食を食べていました)

【作り方】

- ステップ 1 : 現在進行形の文を作る。
ステップ 2 : be 動詞を過去形にする。

<例 1 : 私は英語を勉強していました>

ステップ 1 : 現在進行形の文を作る。 「私は英語を勉強しています」

I am studying English.

ステップ 2. be 動詞を過去形にする。

I was studying English.

<例2：私たちは朝食を食べていました>

ステップ1：現在進行形の文を作る。「私たちは朝食を食べています」

We are eating breakfast.

ステップ2. be 動詞を過去形にする。

We were eating breakfast.

Lesson 21-2：様々なフレーズ③①

1. across from ~ = (道などを横切った) ~の向かいに

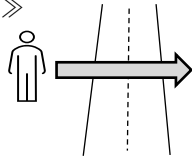
<例> The bookstore is across from the station.

<最初、彼は背が低かったですが、今は背が高いです>

[補足説明]

across は「~ (道など) を横切って / ~を渡って / ~の向こう側へ」という意味。

<<イメージ>>



<例> You can't go across the street.

(あなたは道を横切ってはいけません)

2. next to ~ = ~のとなり (に)

<例> Don't stand next to me. <私のとなりに、立たないで>

3. △△ is a ○○-minute walk (from ~) = △△は (~から) 徒歩で○○分

<例> That restaurant is a 10-minute walk from here.

<あのレストランは、ここから徒歩で10分>

[補足説明]

○○-minute と、○○が2以上の数字でも、minutes ではなく minute と単数の形になるので注意。この○○-minute は、1つの形容詞のように使われる(ここで使われている walk は、「歩行距離 / 道のり」という名詞(基本単数形))。また、minute だけでなく他の単語でも使うことができる。

<例> 10-yen coin (10円玉) two-week vacation (2週間の休暇)

three-hour drive (3時間の運転)

4. all day = 一日中

<例> He was watching TV all day. <彼は、一日中テレビを見ていました>

5. on the first day (of ○○) = (○○の) 初日に

<例> On the first day of school, we didn't have any classes.

<学校の初日に、私たちは授業が全くありませんでした>

[補足説明]

“on the first day (of ○○)” は、主に副詞句として使われ、文の先頭で使われることがよくある。「二日目」「三日目」などと言いたい場合、**first** を **second** / **third** に変えてあげれば完成。

<例> On the second day, we went to Oita. <二日目に、私たちは大分に行きました>

6. bring back = 持って戻る / 持ってきて戻す / (思い出を) 思い出させる / (～に) 戻す

<例> This book brings back a lot of memories.

<この本は、たくさんの思い出をよみがえらせます>

[補足説明]

bring back ○○ という形だけでなく、bring ○○ back という形でも使うことができる (○○が代名詞の場合は、bring ○○ back の形しか使えない)。

<例> I can bring the book back tomorrow. (私は、その本を明日戻すことができます)

I can bring it back tomorrow. (私は、それを明日戻すことができます)

《I can bring back it tomorrow. = ×》

Lesson 21-3 : 過去進行形 否定文

過去進行形の否定文とは「彼は、テレビを見ていませんでした」「彼女たちは英語の勉強をしていませんでした」といった文章です。こちら作り方は非常に簡単。なぜなら、現在進行形の否定文同様、be 動詞の部分を否定すれば完成となるからです。つまり、過去進行形の肯定文を作り、**was / were** の後に **not** を足して **was not (wasn't)** / **were not (weren't)** の形にすれば完成となります。

【過去進行形の否定文：基本の形】

主語 + **was not (wasn't)** + 一般動詞の原形 **ing** + ～.
were not (weren't)

(「主語」は「一般動詞」していませんでした)

<例> He was not (wasn't) watching TV. (彼はテレビを見ていませんでした)

They were not (weren't) studying English. (彼女たちは英語の勉強をしていませんでした)

【作り方】

ステップ 1 : 過去進行形の **肯定文** を作る。

ステップ 2 : be 動詞の後ろに **not** を足す。(be 動詞と not の短縮形を使うことも可)

<例 1 : 彼はテレビを見ていませんでした>

ステップ 1 : 過去進行形の肯定文を作る。→ 「彼はテレビを見ていました」

He was watching TV.

ステップ 2 : be 動詞の後ろに **not** を足す。

He was not (wasn't) watching TV.

<例 2 : 彼女たちは英語の勉強をしていませんでした>

ステップ 1 : 過去進行形の肯定文を作る。→ 「彼女たちは英語の勉強をしていました」

They were studying English.

ステップ 2 : be 動詞の後ろに **not** を足す。

They were not (weren't) studying English.

Lesson 21-4 : 様々なフレーズ③⑩

1. on 所有格 way (to ~) = (～～) 行く途中

<例> I am on my way to school. <私は、学校へ行く途中です>

〔補足説明〕

“on 所有格 way home (to home とはならないので注意)” とすると「家に帰る途中」という意味になる。

<例> I was on my way home. <私は、家に帰る途中でした>

2. enjoy ~ ing = ~することを楽しむ

<例> We enjoyed playing soccer. <私たちは、サッカーをすることを楽しみました>

〔補足説明〕

enjoy は「楽しむ」という意味。基本的に“enjoy + 名詞”の形でよく使われる。

<例> We enjoyed the soccer game. <私たちは、サッカーの試合を楽しみました>

また、動詞 ing は「動名詞（動詞を名詞化したもの）」と言われ「動詞すること」と主に訳される（動名詞でよくある間違いは「買い物に行く」を go shopping ではなく、go to shopping としてしまうもの。to はつかないので注意）。

3. something to ○○ = ○○する（ための）何か（○○には動詞が入る）

<例> I want something to drink. <私は、何か飲み物（飲むための何か）がほしいです>

4. would like ~ = ~をいただきたいです

<例> I would like a cup of coffee. <カップ一杯のコーヒーをいただきたいです>

〔補足説明〕

「would like は、want の丁寧な言い方」とよく言われる。would は「~だろう」「~でしょう」といった意味なので、would like ~ は「~を好むでしょう」と直訳することができ、want to の丁寧な言い方と考えることができる。また、would は助動詞で、Would you ~?（~はいかがですか）の疑問文はよく使われる。

<例> Would you like a cup of coffee? <カップ一杯のコーヒーはいかがですか>

また、主語の I と would を短縮させ、I'd like の形は、会話でよく登場する。

<例> I'd like a cup of coffee. <カップ一杯のコーヒーをいただきたいです>

5. would like to ~ = ~したいと思う / ~させていたきたい

<例> I would like to go home now. <私は今家に帰りたいです>

【補足説明】

would like to は、want to の丁寧な言い方とよく言われる。「would like が want の丁寧な言い方なので、would like to は、want to の丁寧な言い方」と考えると理解しやすい。また、疑問文は Would you like to ~? の形でよく使われ、I would を短縮させ I'd like to も会話ではよく使われる。

<例> Would you like to talk with him? <あなたは彼とお話されたいですか>
I'd like to go home now. <私は今家に帰りたいです>

Lesson 21-4 : 現在進行形 疑問文

過去進行形の疑問文とは「彼は、テレビを見ていたのですか」「彼女たちは英語の勉強をしていたのですか」といった文章です。こちら作り方は非常に簡単。なぜなら、こちら現在進行形の文同様、肯定文を作り be 動詞を文の先頭に持ってくれば完成となるからです。

【過去進行形の疑問文：基本の形】

Was
Were + 主語 + 一般動詞の原形 ing + ~?

(「主語」は「一般動詞」していましたか)

<例> Was he watching TV? (彼はテレビを見ていたのですか)
Were they studying English? (彼女たちは英語の勉強をしていたのですか)

【作り方】

ステップ1 : 過去進行形の **肯定文** を作る。

ステップ2 : 文の先頭に **be 動詞** を持ってきて、最後を ? にする。

<例 : 彼はテレビを見ていたのですか>

ステップ1 : 過去進行形の肯定文を作る。 「彼はテレビを見ていました」

_____ He was watching TV.

ステップ2: 文の先頭に be 動詞 を持ってきて、最後を ? にする。

Was he watching TV?

【疑問文の答え方】

答え方は、基本的に Yes / No の2種類。

Yes, 代名詞 be 動詞.

No, 代名詞 *be 動詞 not.

* be 動詞 + not の短縮形を使うのが一般的。

be 動詞で聞いているので be 動詞 で答える。

do / does / did で答えないように注意。

<例> Was he watching TV?

<例> **Was he watching TV?**

はい → **Yes, he was.**

いいえ → **No, he was not. (No, he wasn't.)**

そして、過去進行形の疑問文が、What や Who といった疑問詞に足される場合は、疑問詞を疑問文の前に足してあげれば OK です。

【疑問詞+過去進行形の疑問文：基本の形】

疑問詞 + be 動詞 + *主語 + 一般動詞の原形 ing + ~ ?

<例> Why was he using your computer? — Because he didn't bring his computer.

〔なぜ彼は彼のパソコンを使っていたのですか。
— なぜなら、彼は彼のパソコンを持って来なかったからです。〕

What were you doing? — I was doing my homework.

(あなたは何をしていたのですか。— 私は、私の宿題をしていました)

【作り方】

ステップ1: 疑問詞の部分(何、など)に同じ種類の適当な単語を入れて疑問文を作る。

ステップ2: 入れた“適当な単語”を「疑問詞」に戻す。

ステップ3: 疑問詞を文頭に持ってくる。

<例: あなたは何をしていたのですか>

ステップ1: 疑問詞の部分(何)に同じ種類の適当な単語を入れて疑問文を作る。

→ 「あなたは、あなたの宿題をしていたのですか」

Were you doing your homework?

ステップ2：入れた“適当な単語”を「疑問詞」に戻す。

Were you doing what?

ステップ3：疑問詞を文頭に持ってくる。

What were you doing?

そして、主語を尋ねる Who/What などの疑問文の場合、「疑問詞を主語とした肯定文の形」となります。

【主語を尋ねる疑問詞の疑問文：基本の形】

疑問詞 + be 動詞 + 一般動詞の原形 ing + ～ ?

<例> Who was teaching your class? — Mr. Oda was.

(誰があなたのクラスを教えていたのですか。 — 小田先生でした)

【作り方】

ステップ1：疑問詞の部分（何、など）に同じ種類の**適当な単語**を入れて**肯定文**を作る。

ステップ2：入れた“適当な単語”を「**疑問詞**」に戻す。

<例：誰があなたのクラスを教えていたのですか>

ステップ1：疑問詞の部分（何）に同じ種類の適当な単語を入れて肯定文を作る。

→ 「彼が、あなたのクラスを教えていました」

He was teaching your class.

ステップ2：入れた“適当な単語”を「疑問詞」に戻す。

Who was teaching your class?

Lesson 21-6：様々なフレーズ③②

1. event this year = 今年のイベント

<例> What was your favorite event this year?

<あなたのお気に入りの今年のイベントは、何でしたか>

〔補足説明〕

event this year のように「名詞+副詞（句）」で副詞（句）が名詞を修飾する形となる。

<例> The people here are very nice. (ここにいる人たちは、とても優しいです)

He studies English at a school there. (彼はそこにある(1つの)学校で英語を勉強します)

2. on stage = ステージ (舞台) にあがって / ステージ (舞台) 上で

<例> We sang that song on stage. <私たちは舞台上であの歌を歌いました>

[補足説明]

on stage は「副詞句」と考えると分かりやすい。また、onstage という 1 語も存在し、意味は「ステージ (舞台) 上で / ステージ (舞台) 上を」(形容詞・副詞)となる。

<例> They walked onstage. (彼らは舞台の上を歩きました)

3. change into ○○ = ○○に変わる

<例> He changed into a cat. <彼は猫に変わりました>

[補足説明]

change は「変わる・変える」という意味。また、into は「～の中へ / ～の中に向かっていく / (変化・結果を表して) ～になる」という意味で、jump into ○○ (○○の中へ飛び込む) といったフレーズでよく使われる。

<例> We jumped into the lake. (私たちは湖の中に飛び込みました)

また、change into の代わりに turn into というフレーズが使われることもある。

<例> He turned into a cat. (彼は猫に変わりました)

4. get married = 結婚する (結婚した状態になる)

<例> They got married last year. <彼らは去年結婚しました (結婚した状態になりました)>

[補足説明]

marry は「結婚する」という一般動詞。そのため「○○と結婚した」という場合、“married ○○”という形になる。

<例> She married Tom. (彼女はトムと結婚しました)

一方で、get married は「結婚した状態になる」という意味。そのため「誰と結婚したか」ということは述べる必要はない。

<例> She got married last year. (彼女は去年結婚しました (結婚した状態になりました))

5. My pleasure. = どういたしまして / こちらこそ

<例> A: Thank you for your help. B: My pleasure.

<A: あなたの助けに感謝します、 B: どういたしまして>

[補足説明]

pleasure は「喜び / 光栄」という意味。そのため、My pleasure. は「私の喜びです」という意味になる。また、My pleasure. の前に It is (It's) / It was を足し、It is (It's) my pleasure. / It was my pleasure. とすることもできる。

My pleasure. の代わりに The pleasure is mine. / The pleasure was mine. という表現もある。

<例> A: Thank you for your help. B: It was my pleasure.

A: Thank you for your help. B: The pleasure was mine.